

よ
か
っ
ち
ゃ
ん

宮園
瑠衣子

■ 登場人物 ■

香里
隆
百合子
平田
女

第一場

居酒屋よしおかの二階。ベランダから入ってきた漫画雑誌を持った男、隆がベッドに横たわっている。頭にはコンビニのビニール袋を被っている。窓からは、夏によって更に気温の上がった熱が部屋に差し込む。被っていたビニール袋を取りおもむろに漫画雑誌を読む。蝉がうるさく鳴いている。

隆 ううう……ううう……

隆は漫画雑誌を広げたり、抱きしめたりしてしばらくの間泣いていたが、ようやく泣き止むと着ているTシャツを脱ぎ、それを丸めて汗と涙を拭く。上半身を隅々まで拭き終わると、窓から風が入る。窓に下げてある赤い風鈴がたどどしく鳴る。隆は体を拭いたTシャツの臭いをかいで、両脇の臭いをかぐ。風鈴の音が次第に大きくなる。隆は風鈴を外してテレビの上に置く。ベランダから香里が現れる。

香里 暑かね。
隆 ……。
香里 なんしよったと。

隆　べつなんも。

隆　Tシャツを着て、あぐらをかく。

香里　ああ、暑かあ、ほんなごつ。最後に雨降ったのいつやったかいね。

隆　しらん。

香里、漫画雑誌を隆に投げつける。

隆　なんね。

香里　なんねじゃなかろうもん。しらんってなんね、しらんって。隆　しらんもんはしらんっちゃけん、仕方なかろうもん。

投げつけられた漫画雑誌の表紙を撫でて胸に抱える。

その背中を香里が蹴る。

香里　あんたの声は暑苦しか。

隆　そげん言うなら、俺もうしゃべらんたい。

香里　…：そんな言わんでよかやん。ね、しゃべらんとか言わんで。

隆、背を向けたままで漫画雑誌を広げる。

香里、後ろから隆のズボンのポケットに手を入れる。

隆　ちょっと、なんばしよっと。

香里は隆のズボンから携帯電話を引っ張り出す。

香里　ねえ、よかろ？　ねえって。

隆立ち上がると、背中に抱きついていた香里が尻

もちをつく。ベッドに横になり漫画雑誌を読む。香里は傍にあるクッションを投げつけるが、隆は無視する。

香里　ねえ、早く電話してよ。

隆はベッドから起き上がり、香里から携帯を受け取る。香里は電話帳を広げる。

香里　ほら、中洲のどこ、上から架けてって。

隆は、香里から電話帳を受け取り、電話を架ける。

隆　あ、えっと。福岡市博多区中洲7丁目の…デリバリーヘルスずつこん節、お願いします。はい、はい。節は竹冠の。はい。

香里はテレビの上に乗っている風鈴を窓に下げ、タオルケットを持ってベランダに出る。電話を切った隆は再び電話を架ける。

隆　えっと、福岡市博多区中洲7丁目で、7丁目です。ヘルスの萌え萌え妹っ子で。初めは、もみじのもで。萌え萌えで。はい。

タオルケットを何回かはたいて、部屋に戻った香里は、隆の頭を撫でる。ベランダからOL風の格好をした女が、カップ麺を持って入って来る。

隆　お願いします、福岡市博多区中洲。

香里　百合子。

隆は電話を切る。

百合子　ああ、お疲れ、暑かね。
隆　こんにちは。

百合子 あら、隆くんもおったと。(持っているカップ麺が熱くて) あっつ。

香里 真夏にそれ？

百合子 ラーメンに夏も冬もなからうもん。そんなことより、あんたが見えたけん、先に受け取って貰おうと呼んだのに気づかなかったやろ。

香里 ああ、ごめんごめん。スカートでよく登って来れたやん。

百合子 パンツ丸見えやったかも。

香里 いいやん。見せとき。

百合子 (いたadakimasと手を合わせる) 見られる内が花って言うやん？ でもアレってさ、見るんじゃないかって、見られた後が花かどうかよね。

香里 後って？

百合子 うわあ、変なもんば見てしまったって、ばり嫌そうな顔されたらさ。

香里 (二人同時に) やばいね。

百合子 やばいやろ。

香里と百合子が大笑いする。隆が立ち上がりベランダへ向かう。

香里 どこ行きようど。

隆 (百合子に) あ、なんか飲みもんば。

百合子 ああ、気使わんでよかよ。

隆ベランダから出て行く。

百合子 ねえ、隆くんかわいいかね。

香里 もうかわいいって年じゃないけんね。

百合子 えっと、八つ下やけん、十九か。早かうちらが年取るの。

香里 うちは二十歳から年取らんごとしたもん。

百合子 よかね、香里は童顔やけん。羨ましか。でも、見た目は若くしとっても、細胞は確実に年ば取りよるけんね。

香里 あんたさっきから怖い事言うね。

香里 はうちわで小百合に風を送る。

香里 順調なん？

百合子 なんが？

香里 仕事。

百合子 ああ、内容やなかね、人間関係ばい。

窓にかけた風鈴の音が、部屋を満たす。

第二場

コンビニから帰って来た隆、香里、小百合。テーブルには三本のペットボトルのお茶とお菓子。三人はそれぞれ飲んだり食べたり、雑誌を読んだり、と、ゴロゴロしている。

香里 ……戻らんで、よかと？

百合子 ああ、うん。まだよか。

香里 もう1時過ぎたよ。もうそろそろ戻った方がいいっちゃない？

百合子 おっいたらいかん？

香里 いかん事ないけど、でもさ。

隆 百合子さん、今仕事何やってんですか？

百合子 向かいに大きなビル建ったやろ。あすこの中に入ってる建設会社の事務。

隆 へえ、すごかね。

百合子 なんもすごい事なかよ、うち正社員じゃなかし。派遣会社から派遣されて働いとうだけやけん。

隆 でもなんかすごか。

百合子 ……隆くんは、今なんばしよっと？

香里 (百合子も真似をして) 隆くんは今なんばしよっと？

隆 なんや姉ちゃん。

香里 隆くんはなんもしよらんと。

百合子 下の店、手伝つとらんと？

隆 店、前にたたんだとですよ。

百合子 (香里に) そうなん？

香里 借金が膨らむばかりやっただけんね。

百合子 じゃあ、なんでまだ梯子使いよると？ あれやろ。下の

店通らんでいいようにって使いよったちゃろ？

隆 なんか、もうペランダから入るの当たり前前みたいになって。

百合子 おかしかね。

隆 おかしい事ばかりやけん。

香里 隆。

隆 ……。

香里 あんた、小百合がおるけんって、調子乗つとうやなかね。

隆 なんやそれ。

百合子 香里、どうしたと。

香里 あんたはこまい時からそうと。何ちゃ輪の外から見て、輪

の中における人たちの観察ばしてから笑いよると。

隆 そげんことなか。俺は、俺は。

香里 ほんとあんたの声は暑くるしかね。

香里ペランダから部屋を出て行こうとする。

百合子 (呼び止める) 香里。

香里 ちよつとコンビニ。

百合子 じゃあ、アイス買ってきて。

香里 仕事は？

百合子 今日クビになったけん。

香里 ああ、そげんな事。

百合子は香里を見送って、部屋へ戻って来る。

隆 ゴメン。俺なんも知らんで、余計な事ば。

百合子 ううん、うちもすぐ言わんかったけん。

窓の風鈴が鳴る。隆は風鈴を外す。

百合子　うち好きよ。

隆　え？　好きって……。

百合子　風鈴の音って涼しげやし。

隆　あ、でも。

隆は風鈴をテレビの上に置く。小百合は置かれた風鈴を見る。

百合子　隆くんは好きな人おると？

隆　なんば急に。

百合子　彼女はおらんと？

隆　ああ、おらんけど。

百合子　ふーん。いそうなのにな。

隆　いそう？

小百合　うん、彼女いそう。

隆　どんな彼女がいそう？

小百合　そうやね、お姉ちゃんがおる人は年上の女の人が合うらしいけん。年上の彼女とかいいかもしれんね。

隆　年上の彼女。あ、よかですな。小百合さんは、彼氏さん、おると？

小百合　おるように見える？

隆　うん。

小百合　それがおらんっちゃん。

隆　小百合さん兄弟は？

小百合　弟がひとり。

隆　……弟。じゃあ、年下の彼氏が合う？

小百合　そうかもしれんね。

隆、テレビの上に置いた風鈴を下げる。

隆　（自分で風を送って）よか音ですな。

小百合 香里まだ好きなんかな？

隆 (風鈴を指して) ああ、これですか。

小百合 それ、河野さんが作った風鈴やろ。

隆再び風鈴を外して、風鈴を眺める。

隆 (テレビの上に置いて) 河野さん、風鈴職人じゃなかったとですよ。

小百合 ええ？ だって香里、河野さんのこと風鈴職人だって。

隆 ああ、姉ちゃんは、河野さんの事、風鈴職人って言よったけど。

小百合 河野さんが風鈴職人じゃなかったなら何なん？

隆 塾の先生。俺の友達の行きよった塾におった。

小百合 香里知っとうと？ 河野さんが風鈴職人じゃないって。

隆 俺、その事話とらんけん。

小百合 何で。

隆 なんか、話したら、姉ちゃん余計傷つきそうで。

小百合 自分より若い女に取られなんて、ひどか話たい。かなりの修羅場やったっちゃろ。何だっけ、あの女。いちれいよんの女？

隆、ズボンの上から携帯電話を握る。

小百合 香里そう呼んどったけど、どういう意味やろうね。

第三場

隆と小百合、親密に肩を寄せ合って隆の大事にしている漫画雑誌を二人で読んでいる。ベランダにはコンビニの袋を提げた香里が二人を見ている。

小百合 うわあ、すごかあ。

隆 本当？

小百合 隆くん、才能あるやん。

香里 ただいま。

隆、驚いて小百合から離れる。

小百合 見て香里、隆くんの書いた漫画、すごかね。こんな雑誌に載るんやもん。

香里 何十年前に書いたやつよ。

隆 一昨年たい。

小百合 「よしおかたかし」って本名やん、ペンネームは付けなかったと。

隆 まさか入賞するって思わなかったけん。

香里 はい、アイス。

小百合 ありがと。

香里と小百合はアイスを食べ始める。コンビニの袋をのぞく隆、自分のアイスはない。

香里 あんたのは買ってなかよ。

小百合 じゃあうちと半分こしようか。

隆 あ、よかです。

男の声 (ベランダから) すんまっせん、あのお。すんまっせんばってん。

香里、ベランダに出ると、作業服を着た男が梯子を上ってくる。

男 あの、下、看板出てないごたですけど、居酒屋よしおさんですよね。

小百合 そうですけど。

平田 私、三井工務店から来た平田ちゅうもんですけど。この方？

香里 娘ですけど。

平田 娘さんですか。良かった。下、何べんも叩いたとですけど、返事がなくて。そしたら、ここを登る姿が見えたもんですから。

ちよつとよかですか。

香里 ああ、三井工務店ってこの間の。

平田 はい、屋根の工事で伺った……。ベランダじゃないんですから、上がらせてもらって、よかですか。

平田。部屋に入る。

平田 どうも、こんにちわ。三井工務店の平田です。いやあ、暑かですね。

香里 それで、何ですか。

平田 ああ、ええっと。ご両親は今どちらに。

香里 ちよつと、旅行に行ってますけど。

平田 ああ、そうですか、お戻りはいつ？

香里 ……。

平田 あの、実は工事費を頂いてませんで。その集金に。

平田は請求書を香里に渡す。

香里 ねえ、隆、立替とつてくれる？

隆 ああ、よかけど、いくら？

香里 三十万。

隆 そげな金持つとらんばい。未成年が貸す金額じゃなかやん。

香里 あの賞金三十万やったろ。

隆 もう使ってなかよ。

小百合 工事費が三十万つてちよつとぼつたりやない？ 今流行の悪徳リフォームじゃなかね。

平田 うちの違いますよ、ちゃんと見積票ば見てもらった分かりますけん。

香里 お父さん、安くして貰ったって喜びよった。

平田 でしょ、この時期は台風が立て続きですからね、台風が来る前に修理したいって言われて工事したとですから。

百合子 それは失礼しました。

平田 よかです。ぼつたくりの業者が増えて、仕事がしにくくなったのも事実ですから。

香里 両親が戻ったら伝えときます。

平田 ちよつとだけ、居させて貰ってよかですかね。ああ、貰うまで帰らないとか、そんなんじゃないかなです、すぐに会社に戻ったんじゃない、私の顔が立たない事もあって。

香里 時間潰すなら、他行って下さい。

平田 じゃあ。工事の後問題ないか、点検して帰りますから、それならいいでしょ。

百合子 ならよかやん、点検して貰ったら。

平田 良ければ、下の店も見ましようか？

香里 余計な事はいいですけん、屋根見たら帰って下さいね。

平田 助かります、じゃあちよつと車から機材取って来ますけん。

平田は部屋のドアから出て行こうとする。

隆 ちよちよちよ。どこに行くのですか。

平田 だから車に。

隆 あすこから出て下さいよ。

香里 下、ちらかつとりますから。

平田 ああ、そげんですか。

平田ベランダから出て行く。

百合子 会社にすぐに戻ったら仕事してないって思われるんやね。

香里テレビの上の風鈴を窓にかける。

百合子 ねえ、旅行ってどこ行っとうと。

香里 ああ、大分。

百合子 湯布院？ よかあ。あ、ねえ、うちたちも一緒に温泉行かん？

香里 よかよ。来週行こうか。

隆 姉ちゃん。

香里 なんね。

隆 何でんなか。

平田の声　じゃあすんまっせんばってん、ちよっと屋根登りますけん。

第四場

風鈴の心地よい音色が部屋を満たす。テーブルの周りには香里、隆、百合子、平田が、お菓子を食べたり雑誌を読んだりそれぞれ好き勝手に過ごしている。

百合子　誰かおならした？

小百合、香里、隆が平田を見る。平田自分じゃないと首を横に振る。

第五場

風鈴の心地よい音色が部屋を満たす。香里、隆、百合子、平田が好き勝手に過ごしている中、テーブルに向かって正座で座っているひとりの女。

女　あの……下の車……。

香里　ちよつと隆、ティッシュば取って。

隆は一枚とって香里に渡すと、香里は鼻をかむ。

百合子　あ、良かったら。

女にテーブルのお菓子を勧める。①と②の会話重なり合う。

女　ああ、はい……。

百合子　ええと、うち、初めましてですよね。

女 え？ ええ、（香里を指して）顔見知りなんですか？
百合子 ああうん、友達。今日は休みやっただですか？
女 え？ 仕事ですか？ 仕事は先月辞めました。
①百合子 先月。うち今日クビになったとよ、ひどかる。
①女 今日の今日ですか？
①百合子 そう、今日の今日。
①女 ああ、決断が早いですね、未練はないですか？
①百合子 ええ？ 未練？ ないない、こっちからおさらばよ。
①女 ああ、そうですね。
②隆 平田さん。時間よかたですか？
②平田 いやあ、隆くんが書いた漫画、面白か。
②隆 そげんですか。
②平田 あら、ここの風景なんか見たごたある。
②隆 ああ、そこ川端町ば書いとつとです。
②平田 私の家、川端。
②隆 え、ほんとですか。
平田 うわあ、家の近くが漫画に載つとるなんて、すごかね。
隆 じゃあ、このおじさん分かります？
平田 あああ、見たごたある。商店街の帽子屋のおじさんやん。
隆 当たり。じゃあ、この人分かりますか？
平田 知つとる。見たごたある。誰やったかな。
香里 隆、うるさかよ。
平田 ヒント。
隆 ヒントですか。商店街の人じゃなかです。
平田 じゃない、とすると。
隆 川端の。
香里 うるさか言いよろうが、あんたは山笠の時だけ張り切つと
けばよかと。
平田 まあまあ、香里さん、そんなに怒らんでも。
香里 平田さんも平田さんですよ、馴染み過ぎじゃなかですか。
百合子 親戚のおじさんやね。
平田 じゃあ、そろそろ、帰りますんで。
女 帰るんですか？
平田 ええ、お仲間同士で楽しんで下さい。

隆 平田さん、ありがとうございます。
平田 ご両親帰られたら、集金に来るけん。またそん時に。
隆 ……。

平田、ドアから出ようとするが、くるとベランダへ方向転換をして部屋を出て行く。しかしすぐに再び部屋へ戻って来る。

平田 ああ、あの。

香里 何ですか？

平田 あの、下からどなたか登って来ようと思いますが。

香里 ええ？

第六場

部屋には女がひとり。コンビニの袋を手に取りそれを被ってみる。息が苦しくなり、被っているビニール袋を取り、激しく咳き込む。そこへ香里、隆、百合子がベランダから戻って来る。

香里 あんなボロ車盗む人もおるっちゃね。

隆 乗せとった機材が目的じゃなかかって。

百合子 警察の事情聴取なんて、初めてやけん緊張した。

隆 俺も。

香里 ひとつん家でいつまでもゴロゴロしとるけん、車ば盗まれるったい。

百合子 未遂でよかつたやんね。誰が通報したっちゃろ。

隆 女の人の声やっただってよ。

女 それ、私です。

隆 え？

女 ああ。あの通報したの、私です。

隆 そ、そげんですか。

百合子 それはお手柄やったね、あ。なら一緒に事情聴取ば受け

れば良かったのかな。

女 はあ。

百合子 ……何かよう分からんけど、車無事で良かったやん、ねえ。

全員黙る。

百合子 (間が持てず) じゃあ、うちそろそろ帰るけん。色々ご馳走になってしまつて、ありがと。あ、また明日遊びに来るかも。当分暇になると思うけん。

香里 ねえ、百合子。

百合子 なんね。

香里 あんた、仕事ばクビになつたつて言よつたけど、派遣なら次の仕事、また何かあるつちやる?

百合子 ああ、そうやけど、まだ分からん。

香里 うちが言うのも何やけど、働く気があるなら頑張つたらよかた。百合子なら、まだいくらでも仕事あると思うよ。

百合子 (なんとなく) うん。

香里 それと、来週の温泉。うち行けんかもしれん。

百合子 え、何で。

香里 ああ、店たたんだやろ、その片づけが色々あるけんさ。

百合子 ならうちも手伝おうか?

香里 よかよ、家族で片付ける事やけん。

百合子 そお?

香里 隆、そこまで百合子、見送つて来るけん。

隆 ああ、俺も行く。

香里 ……ならあんた送つて行き。

隆 うん。

百合子 じゃあ、香里、また。電話して。(部屋を出る)

香里 うん、ありがと。……隆。

隆 なん。

香里 ちゃんと帰つてきいよ。

隆 ……分かつと。(部屋を出る)

香里は隆と百合子をベランダからしばらく見送り、部屋へ入る。

香里 あの子ね、隆。ああ見えてもまだ十九歳なんよ。

女 弟さんですか。

香里 うん、うちの弟。これね、弟が書いた漫画。(漫画雑誌を見せて)小さい頃からずっと絵ば書きよったけんね。友達と遊ぶよ、絵を書くくんが好きやったと。漫画書いたらって言ったのうちなんよね。

女 すごいですね。

香里 すごかる。うちの言う事、何でん聞く子やった。

香里、ベランダの窓を閉める。蝉の音が小さくなる。

女 (カバンから紙袋を出して)あの。これ、持って来ました。市販のは軽いですから、五錠でよく眠れると思います。

香里 (窓の外を見て)ほんなごつ。暑かね。

第七場

ベランダの窓が閉められた部屋は、蝉の鳴き声や風鈴の音も響かない。香里と女、二人向き合って正座してる。頭にはコンビニのビニール袋を被っている。

香里 眠つとる間にこの空気が無くなるとやね。

女 念の為、首の処、紐か何かで縛りますか。

いつの間にかベランダに平田が立っている。

香里 (被っているビニール袋を取って)たこ糸があったと、(平田に気づいて)平田さん。

女も被っているビニール袋を取って、平田の方を見る。香里はベランダの窓を開ける。

平田 さっきは、すんませんでした。騒がせてしまったから。

香里 それをわざわざ言いに来たのですか。

平田 いや、ああ。集金の事なんやけど、ああ、催促に来たとじやなかとよ。

香里 ……。

平田 あん三十万はいらんごとになったけん。

平田は今にも泣き出しそう。

香里 なんがあったのですか。

平田 うちん会社、悪徳リフォームやったのです。

香里 は？

平田 あの後、警察の人と会社に戻ったとです。そしたら、社長が何を勘違いしたか、警察の人に飛び掛って逃げようとしたとですよ、それで、社長、警察に捕まって、不当な工事がバレてしまったとです。

香里 ええ？

平田 実は、さっき屋根を点検した時、手抜き工事ば幾つも見つけてしまってから。たぶんここだけじゃなくて、他の家も…。

香里 ああ、でも平田さんは知らなかったとでしょ。

平田 それじゃ、通用せんですたい。五年、いや十年、もしかしたらずっと刑務所に…。

平田は泣き崩れる。

平田 私はいつつもうですたい。上手く行きかけたと思ったら、それはただの思い過ごしで、ひどいしっべ返しに合うとです。頑張っていない事ないんですけどね…頑張ってるのになあ。

香里 平田さん…。

平田 ……もう生きて行くのが辛かです。

女 平田さん、一緒に行きませんか。
平田 え、どこにですか……。

第八場

ベランダの窓が閉められた部屋には、香里、女、平田の三人が正座で向き合っている。片手には睡眠薬、脇にはコンビニのビニール袋。女が薬を含むのを見て香里が薬を口に運ぶ。平田も薬を飲む。ペットボトルのお茶で三人は薬を流し込む。三人はビニール袋を被って、首の所をたこ糸で結ぶ。それぞれのタイミングでゆっくりと横になる。隆と百合子が梯子を上って戻って来る。

隆 (部屋の様子に気づいて) ……姉ちゃん。姉ちゃん！
百合子 香里！

二人は窓を開けて部屋に入って来る。

隆 姉ちゃん！ (ビニール袋を取ろうとするが、首で結んでいる紐が解けない) ちよっ、かた結び。(ビニール袋を破って) 姉ちゃん！
香里 あんた、なんで帰って来たと。
隆 帰って来て言ったやん。姉ちゃんがちゃんと帰って来ていったやろ。(女の方を見て) もう、ちよっと(ビニール袋を破る。平田を見て) これ誰？ (ビニールを破って) 平田さん！ ってなんで平田さんが？ もう訳わからん。
百合子 香里、なんでこげん馬鹿な事ばしよう！
隆 (香里を抱きかかえて) 俺、姉ちゃんが言う事、なんでん、なんでん聞くけん。104にも何べんも架けちゃ。今度はさ、北海道のすすきの風俗にしようか、もう中洲は全部かけたやん。104の女にもっと恥ずかしい事言わせようや。ねえ、姉ちゃん、…俺生きたか、姉ちゃんと生きたかばい。俺、漫画ば書く。今

日の事、漫画に書くけん。

香里 書いてどげんすつと。

隆 笑い飛ばすつたい。今日の事、一緒に笑おう。姉ちゃんが面白いって笑う漫画ば書くけんね。

百合子 香里、こればどんだけ飲んだと。

香里 (五錠と手を広げる)

百合子 五つやね、五つ飲んだとね。(隆に)うち救急車ば呼ぶけん。(携帯を出すが充電が切れている)充電が。下の電話借りるけん。(部屋の扉から出て行く)

隆 (呼び止めて)百合子さん! 百合子さん! 百合子さん!

香里 (行く隆を引き止めて)よかよ。

隆 ……ごめんなさい。

香里 ……あんたの漫画、面白かよ。

百合子血相を変えて部屋に戻ってくる。

百合子 ……おじさんと、おばさん、死んでる。

蝉の鳴き声と風鈴の音交じり合つて……。

おわり